

黒岩 岳雄

〔ふらの未来の会〕

富良野市地域防災計画は

問 災害時の応急復旧業務協力体制について。

答 「災害時における災害応急復旧業務に関する協定書」を富良野建設業協会外3団体と結び災害に備えている。構成企業の減少に対しては、新体制で担うよう変更している。市民の生命と財産を守ることは行政の最大の責務である。応急復旧業務にあたる協力事業者が地元あるいは圏域で確保できることは大変重要なことと認識している。

朝日ヶ丘公園の整備

問 公園内の桜の枯木、老木等の更新整備について。

答 朝日ヶ丘公園は道内において桜で有名である。この美しい景観から昭和30年に道立富良野芦別自然公園に指定されている。公園内東側の一部には土砂崩壊防備保安林もあり、安全管理上困難な場所もあるが、枯木や

老木の処分や植替えは市の判断により可能である。今後、公園の保全は必要と認識しており可能な範囲での整備を考える。



朝日ヶ丘公園 桜

市の広報活動は

問 本市のPRを意識したメディア対応について。

答 へそ祭り会場では「へそま君」のバックボードの設置や全国高校選抜スキー大会では「スキー甲子園」を印字したボードを設置してPRしている。バックボードは「富良野」をPRする有効なものであり、記者会見、イベント案内、ワイン等の新商品発表会や表彰式など他団体の行事にも利用することが可能なので、導入を検討する。

岡本 俊

〔市民連合〕

財政健全化維持は

問 健全財政の維持の基本的な考えは。

答 東小学校校舎・屋内運動場改築など大型事業が重なり、地方債発行額が一時的に増加している。平成30年度の財政見通は、27年以降、事業費、地方債発行額と徐々に減る見通しである。今後、市税や地方交付税の増加は見込めない中、社会保障関係経費の増大が予想され「身の丈に合った財政運営」を基本的に効率的な事業推進に努める。

過疎対策事業債の活用も検討していくことになるが、「過疎対策事業債ありき」ではなく、交付税措置のある地方債を活用し健全財政の維持を図る。

公有財産の利活用は

問 旧北の峯ハイツ施設の利用について。

答 旧施設は、今後多用途な活用が考えられることから、平成

25年12月に建物については社会福祉法人から無償譲渡され、土地は、本年9月まで借上げ契約しているが、再度協議を進め市民が多目的に交流・活動ができる施設として検討中である。



旧北の峯ハイツ

衛生用品資源化は

問 今後の衛生用品の資源としての利活用について。

答 昨年からの衛生用品資源化に向けた破碎・乾燥等の実験を重ね、固形燃料化が可能かを確認し、実用化に向けた品質向上、臭気等の環境対策、資源化システムを検討し、北海道立総合研究機構と固形燃料ボイラーの燃焼試験も予定し農業や公共施設などの利活用について検討する。